

アニメ聖地巡礼における地域の役割

—埼玉県秩父市を事例として—

齊藤海来

本論は埼玉県秩父市で行われたアニメ聖地巡礼において、地域の役割を「秩父アニメツーリズム実行委員会」という組織に着目し、聖地巡礼が成功した理由を明らかにする。

秩父市は筆者の地元であり、テレビアニメ「あの日見た花の名前を僕たちはまだ知らない」(以下『あの花』と表記)の聖地巡礼が秩父市の観光産業に与えた影響の大きさを感じた。そこで、秩父市でのアニメ聖地巡礼の現状と今後を地域の役割から考えたい。先行研究では、アニメの聖地巡礼が属しているコンテンツツーリズムの歴史から、アニメツーリズムと地域振興について整理した。その結果、アニメツーリズムでは3つのアクターによるトライアングルモデルがとても重要であることが分かった。また、秩父市でのアニメツーリズムは「秩父アニメツーリズム実行委員会」という組織が根幹を担い、大きな役割を果たしていることが明らかになった。そこで、本研究ではこの組織に属している秩父市役所観光課にインタビューを実施した。

インタビューでは「秩父アニメツーリズム実行委員会」という組織の設立の経緯と役割、これまでの活動、今後の活動を軸に話を伺った。その内容から「秩父アニメツーリズム実行委員会」、「あの花」の聖地巡礼のために設立された組織ではないことが明らかになった。アニメの聖地巡礼で観光客を呼び込む活動では、聖地巡礼でよく行われるスタンプラリーやフラッグの掲出のほかに、秩父市で行われる祭りやコラボを果たし、多くの観光客を呼び込むことに成功していた。これからの活動については、訪れる人がマンネリしないよう意識していた。インタビュー全体を通し、3つのアクターによるトライアングルモデルの重要性が語られ、トライアングルモデルがアニメツーリズムで重要であると再確認することができた。

秩父市は『あの花』以外にも、「心が叫びたがってるんだ」、「空の青さを知る人よ」と全3作のアニメの聖地として知られている。この3作品は「秩父3部作」と呼ばれている。複数の作品で登場している秩父橋は、「あの花」の放送前は観光地とは言えない場所であったが、アニメ放送後には観光客が訪れるようになった。秩父橋以外にも、一見普通の街並みも聖地巡礼で訪れた観光客が作品の世界観を感じることができる特別な場所になっている。

今後新しく秩父市を舞台にアニメが作成されれば、これまで培ったファンや製作者、地域住民との良質な関係性によって、聖地巡礼は成功すると考えられる。

以上のことから、秩父市の聖地巡礼は今後も持続して観光客を呼び込むことができるだろう。